

媒体名：月刊健康と医療  
 掲載日：2007年2月2日  
 出版社名：健康医療ジャーナル

# 環境対話キャンプ 初めて関東で開催

## この4月から 特別支援教育制度スタート

本紙でも何度か紹介してきた倉敷市立短期大学の平山 論教授。これまでに「目」対しのPS（フオオアチルセリ）の効果を見た臨床試験などを紹介してきた。軽度発達障害の児童に食事など栄養やサプリメントによるアプローチを行っている数少ない専門家。この4月から、学校教育の現場では特別支援教育制度が導入され、大きな変動が起こる。この制度の対象となるのが「目」を始める。軽度発達障害の児童だ。平山教授の環境対話キャンプは軽度発達障害の改善に効果がある3日の試み。通常は関東圏で行われるこのキャンプが、今年初めて関東で開催された。今回は24日となるこのキャンプに本紙も参加し、その意味合いを紹介してみる。

# AD/HDなど軽度発達障害 の児童のための

この4月から実施される特別支援教育制度は、通常学級で6・3%を占めるといわれる軽度発達障害の児童が、特別支援教室（旧特殊学級）などに通級することで、必要な支援を得られるようにする制度。だが実際は、特別支援教室には既に、身体障害や知的障害を持つ児童がおり、どの程度軽度発達障害の児童をサホートできるかは、全くの未知数だ。

加えて通常学級の教師にはどうした障害の診断がつかないという説明するのは難しい。実はこの説明の難しさが、これらの障害の深刻なところだ。

「目」注意欠陥多動性症候群やASIIアスペルガー症候群、LDI学習障害など軽度発達障害の児童について説明するのは難しい。実はこの説明の難しさが、これらの障害の深刻なところだ。

倉敷市立短期大学 平山 論教授



例えばこの環境対話キャンプで児童と保護者が集まっている。宿泊所の集会場で受付を済ませる間、子供



効果測定に使われるGo and No go課題に取り組み児童

## 医療では何のケアも受 けられない6.3%の児童

「目」注意欠陥多動性症候群やASIIアスペルガー症候群、LDI学習障害など軽度発達障害の児童について説明するのは難しい。実はこの説明の難しさが、これらの障害の深刻なところだ。

## 欧米ではサプリメント ションも効果を上げる

も、その人の髪の毛を引っかくことで、その症状が軽減 張つたり、場面に関係なく、されることが報告している。このキャンプでも栄養 環境を変えようとする大きな



迷路課題なども用いられる



親子で歌って踊るサイコ（心理）モーター（運動）

目的としている。子供一人にサプリメントが2つ入って指図が行われるが、このサプリメントの行動を親が見て、親の行動を改めるようにトレーニングは子供だけでなく親も指導するので、家庭環境を変えることだ。家庭環境を変えることなのだ。もちろんサプリメントの効果も大きい。ちなみにサプリメントといってもサプリメント生活するわけではない。

効果測定は「目」課題や認知テストなどで測定される。初日と最終日で明らかに改善が見えるのだという。

プログラムを通し、大切なのは、平山教授の提唱する21のスキルだと感じている。微笑みや、見つめるなど、子供に働きかけるときに、場面に応じてこれらのスキルを用いて子供に働きかけることで、子供の正しい反応を引き出す。親がこのスキルを学ぶことが、一番重要なことであると感じた。

平山教授の提唱する21のスキルは、何も軽度発達障害の子供だけに必要なものではない。健常の人間関係や、社会でも最も必要とされているコミュニケーションスキルといえる。本来であれば、成長に従って身に付けられるこれらのスキルが、身に付かなくなっている社会が、軽度発達障害を生んでいるのかもしれない。とも思える充実したキャンプだった。

本紙では今後も、平山教授の環境対話キャンプや、LDIについて、継続的に取り上げていく。